

多数のご要望に応え春にも開催！

～ひがしどおり新緑そば街道まつり～



どの会場も多数のお客さんで大賑わい！

5月12日(土)・13日(日)の2日間、村内4地区(上田屋地区、鹿橋地区、大和地区、目名地区)において、ひがしどおり新緑そば街道まつりが行なわれました。

例年、秋に開催されている「ひがしどおり新そば街道まつり」は、収穫したばかりのそば粉を使用した新そばを味わおうと大勢のお客さんで賑わいますが、来場者からの「1年も待てない!」「春にも開催して欲しい!」との多数の要望に応え、「ひがしどおり新緑そば街道まつり」が開催されることとなりました。

各会場では、つなぎを一切使わずにそば粉100%で打った十割そばと、鶏ガラ・昆布だしベースのあっさりしたつゆが絶妙な『東通そば』をはじめ、ざるそばや漬物、春の山菜なども人気で、どの会場も賑わっていました。

常連のお客さんは半年ぶりの東通そばに舌鼓を打ち大満足。「秋の新そばも楽しみにしています」と早くも秋の味覚に思いを馳せていました。

大きくなって帰ってきてね!

～東通小学校2年生によるサケ稚魚放流～



元気に育つよう想いを込めて放流しました

5月10日(木)、老部川内水面漁業協同組合の協力により、老部川において、東通小学校2年生によるサケの稚魚放流(約20万尾)が実施されました。

このサケ稚魚放流は、放流を通じて子ども達にサケの生態について関心を持たせるとともに、やさしい心で動物や植物に接し、自然を愛する心を育むことを目的に、小学校2年生を対象に毎年実施されているものです。

放流の前には、むつ水産事務所 所の山田主幹より、サケの成長や放流の仕方について説明があり、「サケの稚魚は、皆さんが小学校を卒業する時と同じくらいの時期に帰ってきます」との説明を聞いて、サケの稚魚に対してますます親近感を感じていた様子でした。

放流の際には、サケの稚魚が傷つかないように優しく放流し、「大きくなって帰ってきてね!」「ほかの魚に食べられないでね!」と稚魚に向かって元気に声をかけながら見送りしました。